

経産省の新連携に認定

大幅な工期短縮・品質向上

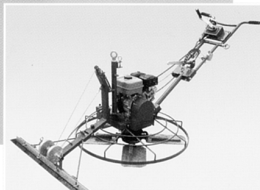
太宰府市に本社を置く(株)上成テクノ(木場義幸社長)が開発した「機械化による画期的な床コンクリート表面仕上げJPS工法の事業化」が、このほど経済産業省の「新連携事業計画」に認定された。

同事業は、コンクリート表面層部をポリマーディスプレイン(有機化合物の分子が重合し、生成された化合物)化する画期的な新工法。

コンクリート床面の仕上げについて、人手に頼っていた「コンクリート均し」「中間転圧・不陸修正」「最終仕上げ」の各工程のそれぞれに対応した装置の開発で、機器をシリーズ化(工法特許取得)。「中間転圧」の機械化はクラック防止に寄与し、熟練コテ技

画期的な床コンクリート施工

(株)上成テクノ



者が中腰で行っていた「最終仕上げ」の機械化は、労働者の負担を軽減し、熟練技能者不足の解決、仕上がり外観及び作業効率の向上に貢献する。

コンクリート打設後、①サーファー(振動式均し機)で骨材を沈め、余剰水やエアを抜く②粗化機(歩行式クシ引き機)で約3〜5mmクシ引きを行う

③散布機(歩行式散布機)で改質材をクシ目に浸透させる④ローリー(ローリー式再転圧機)で再転圧し、表面が一体となるように締めを行う⑤ハンドマン(歩行式仕上げ機)Ⅱ写真Ⅱで最終金コテ仕上げを行う。各機器で特許を取得しており、ローリー及びハンドマンは海外特許取得とPTC(国際特許・アメリカ、中国他)取得し

コンクリート打設後、①サーファー(振動式均し機)で骨材を沈め、余剰水やエアを抜く②粗化機(歩行式クシ引き機)で約3〜5mmクシ引きを行う

ており、連携体の構成として、コア企業は(株)上成テクノ、現場施工は(有)上成工業及び協力会社、機械製造は岡三機工(株)(大阪市)となっており、改質材供給は日本化成(株)、共同実験を大分大学と行っている。尚、国土交通省のNETISにも昨年10月登録されている。問合せは、同社・電話092-1928-1177番。

し、数年